

諏訪地方の 経済概況 速報

2016.07

2016年6月末調査／2016年7月27日発行

SUWA AREA
ECONOMIC
OVERVIEW



諏訪信用金庫
SUWA SHINKIN BANK

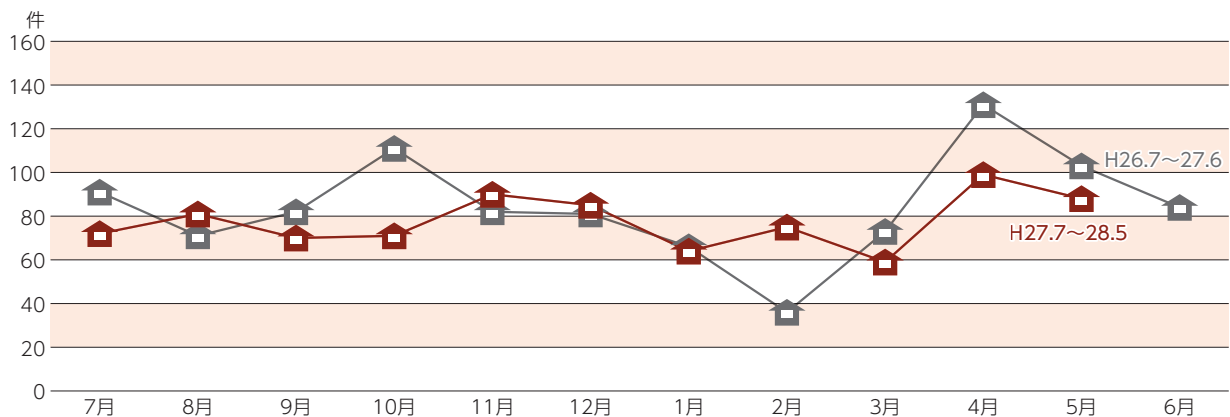
諏訪地方の概況

6月は、世界経済の下方リスクや内需の腰折れ懸念などから、安倍首相は消費税10%への引き上げを2年半延期することを正式表明した。日本経済は、円高・株安傾向と原油価格上昇の動きの中で、国民投票で英国のEU離脱が選択された影響を受け、市場が大荒れとなった。諏訪地方では、英国のEU離脱問題は、貿易を通じた直接的な影響は総体的に大きくないと見られるが、市場の混乱などによる先行き不安の声が出ている。一方、総務省発表の平成27年国勢調査速報で、65歳以上の人口は調査開始以来最高となり、初めて総人口の4分の1を超えた。長野県内は全国平均の高齢化率を上回り、少子高齢化が一段と進行している。

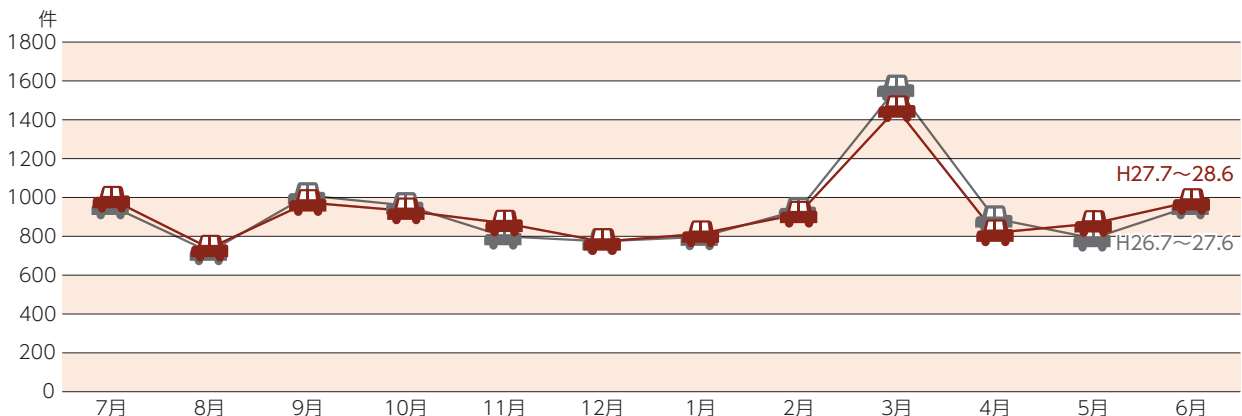
(諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ)

		実 数	前年同期比	
有効求人倍率【5月】(諏訪公共職業安定所管内)		1.32倍	0.21ポイント	
手形交換高【6月】(諏訪手形交換所扱)	枚 数	5,345枚	△1,442枚	
	金 額	6,031百万円	△2,379百万円	
	うち不渡り発生状況	枚 数	0枚	△1枚
		金 額	0千円	△1,572千円
電力使用量【6月】(中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	34,864MWh	△0.3%	
	高圧電力計	86,957MWh	△3.1%	
	合 計	121,821MWh	△2.3%	
車庫証明取扱件数【6月】(諏訪地方合計)		979件	2.4%	
新設住宅着工戸数【H28年4~5月】(諏訪管内)		187戸	△20.1%	

■新設住宅着工件数の推移(諏訪地方合計)



■車庫証明件数の推移



英国のEU離脱問題は、欧州向けの輸出が多い取引先を持つ企業などから、先行き不安の声が挙がっている。製造品の輸出状況への不安とともに、円高傾向となることへの警戒感がある。熊本地震や軽自動車の燃費データ不正問題の影響が続く企業もある。輸送用機械で自動車部品関連は、北米向けなどで一部好調な企業もあるが、総体的には低調に推移している。他業種に比べて英国のEU離脱問題への不安感が強い。金属製品加工は、取引先によって増減の波が大きい傾向が続いている。一般機械は、設備関連で好調が続き、新規見積り引き合いも多いが、工作機械は総体的に低調に推移している。電気機械は、携帯電話会社が機能アップを図るスマートフォン基地局向け光通信関連や一部半導体関連装置などに好調な動きがある。精密機械は、通信機器や車載カメラ関連などが順調に推移しているが、円高進行で海外向けを主力とする企業からのコストダウン要請が懸念されている。

金属製品 プレス、メッキ、熱処理など	前年同月比では各社増減さまざまだが、主力取引先の生産計画の上方修正や海外に流れた仕事の品質上の理由による回帰などで受注が増加した企業がある。自動車関連はメーカーによって受注環境が異なるが、わずかながら、一部で三菱自動車関連部品の動きが出ている。各自動車メーカーのモデルチェンジやマイナーチェンジによる受注増加が期待されている。
一般機械 工作機械、専用機械、省力機械、検査機械など	大手企業がこれまで抑制してきた設備更新をしていることなどから、省力化機械、検査機械、搬送用機械関連は好調に推移している。自動機を中心とした新規見積り引き合いも旺盛。ただ、新規の見積り依頼も含め、短納期が多くなっている。一方、工作機械関連は、韓国や中国向けの低迷などで、主要取引先からの受注減少が続いている企業がある。
電気機械 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	首都圏でのビル建設などに伴うコンピュータ用高速電源切り替え装置や電源装置関連、光通信関連、LED関連は好調に推移している。一部プリンターも好調。海外工場向けなどの半導体関連の装置も動いている。スマホ関連は、普及率が高まり飽和感もある中で、次期機種に向けた受注の伸びが期待されている。円高傾向は懸念材料となっている。
輸送用機械 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車部品関連は、北米の景況に支えられ、受注が安定している企業もあるが、総体的に主要取引先からの受注は弱さがある。円高の影響などで、コストダウン要請もある。熊本地震の影響で取引先からの受注減少が続いている企業も見られる。燃費不正問題で止まっていた三菱自動車関連部品は、日産自動車との資本提携で落ち着きつつあり、少しずつ動き出している。ただ、英国のEU離脱問題に伴う為替変動の懸念があり、先行きに不透明感を持つ企業が多い。農機、建機関連の動きにも鈍さがある。船外機は2ストロークエンジン部品が主流の新興国向けが安定している。
精密機械 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	通信機器や車載カメラ関連が順調に推移し、光ファイバー関連も安定している。光学機器業界全体の仕事量は減少傾向で、業界内に技術格差がある。加工難度が高くなる一方で、平均の受注単価は低下する動きもあり、効率化や技術力向上などでの収益性向上が求められている。医療用機器、研究機関向け機器などの高難度加工レンズは堅調に推移している。
製造業全般	寒天は県内と近県の道の駅の売上が好調。遠方からの電話注文も多くリピーターも増加している。味噌は無添加、減塩商品が安定した売上で、消費者の健康志向が強まっている。円高進行で大豆などの原料価格は低下傾向となっている。

商業

「御柱祭終了で平常へ」

諏訪地方の6月の天候は前半が晴れた日が多く、その後は梅雨前線の影響で曇りや雨の日が多くなった。気象庁は6月5日ごろの関東甲信地方の梅雨入りを発表した。諏訪地方では、御柱祭期間中、店舗間で来客数や売上に増減が見られた小売店などは、平常に戻った。御柱祭で使用した法被のクリーニング需要は旺盛だった。自動車販売（軽を除く）は、諏訪地方の6月の車庫証明件数が979件で、前年同月比23件増加（2.4%）したが、軽自動車の燃費データ不正問題への不信が続き、来店者の購買意欲低下も見られた。

衣料	急激に気温が上昇し、夏物衣料の売上が伸びた。
食料品	生鮮野菜関係の価格は例年並みで安定しているが、鮮魚は天然、近海物の品薄が続き、価格は2～3割増しで高止まりしている。牛肉も価格高騰が続き、国産牛、和牛は供給不足傾向となっている。青果は例年より2週間ほど早く出回っている。
家電製品	猛暑予想でエアコン販売が好調。特に高機能製品が人気。昨年6～7月は気温が上がらず販売が低迷した反動もあり、前年同月比の伸びは大きい。
自動車	県内の6月の新車新規登録台数は、登録車が2ヶ月ぶりに減少し、軽自動車は18ヶ月連続で減少した。全体では前年同月比1,207台減少（△12.5%）の8,477台で、10ヶ月連続で減少した。
ホームセンター	小学校の運動会がピークで、ラインを引く粉、敷物、写真撮影用の踏み台などが好調だった。合羽や傘は売れ行きが伸びなかった。

観光・サービス業

「グリーンシーズン最盛期」

6月の諏訪地方では、御柱祭終了後も一時観光客が増加したが、次第に落ち着き、上諏訪温泉などでは前年同月比で売上が減少した施設が増えた。一方、諏訪大社への参拝者は増加している。山野草の最盛期となる6月は、グリーンシーズンの中でも集客が期待できる月で、比較的晴れの日が多く、週末が好天だったことから、高地の観光地などでは売上、入場者数とも前年同月を上回った施設があった。夏は団体旅行より個人旅行が増加する傾向もあるが、観光バスによる団体利用客は前年より減少し、長距離バスの規制強化の影響が尾を引いている。海外予約宿泊サイトを充実させ、インバウンドへの積極的な働きかけをする施設もあった。

上諏訪温泉	6月の宿泊人数は前年同月に比べて減少した施設が多く、施設別では前年同月比80%台～110%台だった。関東、東海方面の宿泊客は前年を上回ったが、30人以上の団体客が落ちこんでいる。インバウンドは前年同月比で増加し、今のところ円高の影響は見られない。海外から紅葉シーズンの仮予約も入っているが、未決定で、経済情勢などによる先行き不安の声がある。
蓼科・白樺湖・車山等	前年同月に比べて、登山客が減少し、一般観光客が増加する傾向だった。ニッコウキスゲを目当てとする観光客を確保している施設では、近年、開花のピークが夏休み前となり、宿泊客の獲得が難しくなっている。富士見方面ではマウンテンバイク利用客を取り込み、売上を伸ばした施設があった。
下諏訪温泉	各種団体の総会などの宴会で売上が増加した施設があるが、土産物の売上は、毎年減少傾向となっている。
諏訪大社	上社・下社合わせた6月の参拝者数は約6万人。前年同月比では約1万8千人の増加（43.2%）となった。

建設業

「御柱祭終了後も動きは低調」

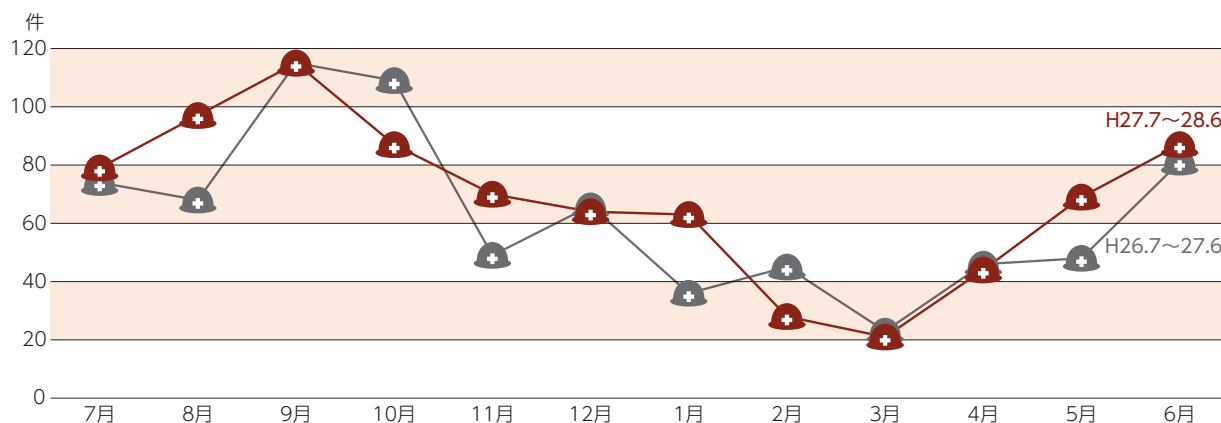
6月の市町村からの受注工事は、合計87件、1,184百万円となった。前年同月に比べ、件数は6件、契約金額は307百万円増加した。国県関係の平成28年4～6月の累計公共工事（地元業者受注分）は前年同期累計比で件数、契約金額とも増加している。民間工事は、諏訪地方の5月の新設住宅着工戸数が88戸で、前年同月比15戸減少（△14.6%）した。平成28年4～5月の累計は187戸で、前年同期比47戸減少（△20.1%）している。御柱祭終了後の回復が期待されていたが、総体的な動きは低調なまま推移している。また、消費増税開始が再延期となり、一般住宅の駆け込み需要が期待できなくなった。

公共工事	6月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は諏訪建設事務所4件、県施設課関係2件、諏訪地方事務所林務課2件、同農地整備課1件、県警察1件、その他土木・建築工事4件の合計14件で、契約金額は533百万円だった。平成28年4～6月の累計は19件、691百万円で、前年同期の累計比で件数は5件、契約金額は268百万円増加（63.6%）した。例年通り、予算確定後の6月から本格的な動きとなった。 市町村からの6月の受注工事は、建築工事6件186百万円、土木工事及び下水道工事55件848百万円、その他工事26件149百万円となった。
民間工事	諏訪地方の5月の新設住宅着工戸数は、前年同月比の利用関係別で「持家」は10戸減少の52戸、「貸家」は3戸減少の31戸、「分譲」は2戸減少の5戸、「給与」は同数の0戸となった。長野県内の5月の新設住宅着工戸数は1,010戸で、前年同月比20.5%増加した。前年同月比の利用関係別では、「持家」が640戸で12.7%増加、「貸家」は269戸で28.1%増加、「給与」はなく、「分譲」は101戸で74.1%増加した。

■諏訪地方の4月の新設住宅着工状況

区分 市郡名	合計 戸数	前 年	利用関係別								構造別			
			持家	前年	貸家	前年	給与	前年	分譲	前年	木造	前年	非木造	前年
岡谷市	18	34	10	18	8	16	0	0	0	0	9	33	9	1
諏訪市	11	32	8	10	1	18	0	0	2	4	9	32	2	0
茅野市	42	15	18	13	22	0	0	0	2	2	38	14	4	1
諏訪郡	17	22	16	21	0	0	0	0	1	1	16	21	1	1
合計	88	103	52	62	31	34	0	0	5	7	72	100	16	3

■公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）

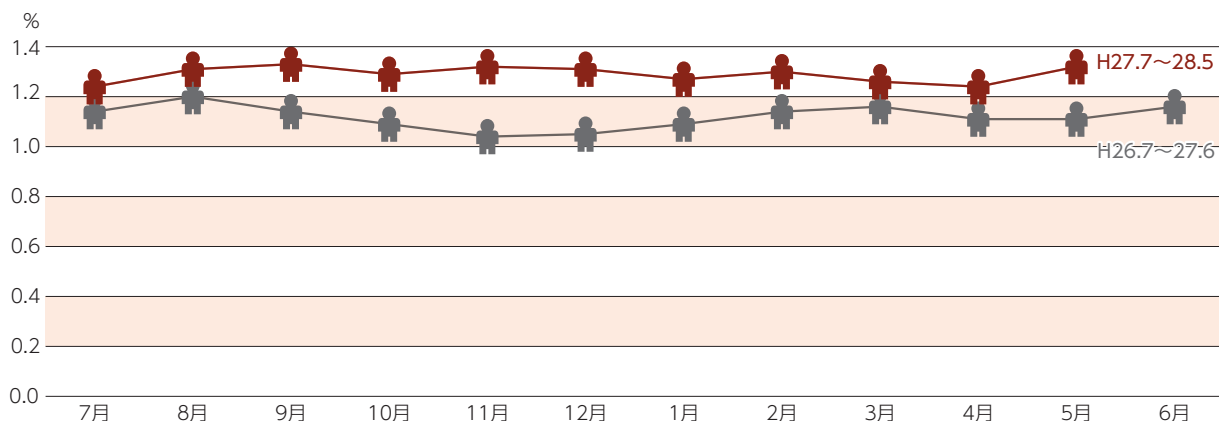


「県内有効求人倍率約23年ぶりの1.4倍台」

諏訪地方の5月の有効求人倍率は、前年同月を0.21ポイント上回り、前月を0.08ポイント上回る1.32倍となった。1倍台の維持は26ヶ月連続で、前年同月を上回るのは36ヶ月連続となっている。全国平均は前月比0.02ポイント上昇の1.36倍となった。平成3年10月以来24年7ヶ月ぶりの高い水準。15～64歳の就業率は74.1%で比較可能な昭和43年以降で最高となっている。長野県平均は1.43倍で前月を0.04ポイント上回った。1.4倍台は平成5年7月以来、22年10ヶ月ぶりの高水準。23ヶ月連続で全国平均を上回り、県内4ブロック全てで、31ヶ月連続前年同月を上回っている。製造業が増加し、特に設備投資関連業種の伸びが目立つ。非製造業も観光関連を中心に人手不足感がある。

諏訪地方の新規求人数(全数)は1,587人で、前年同月比236人増加(17.5%)した。要因別では「業務量増大」「欠員補充」が増加し、「継続する人員不足」「創業・新分野展開」は減少した。業種別の前年同月比の新規求人数は、「医療・福祉業」「生活関連サービス・娯楽業」で増加し、「運輸業」で減少した。新規求職者数は835人で、前年同月比17人減少(△2.0%)した。1件10人以上の人員整理はなく、事業主都合による雇用保険資格喪失者は20人で、前年同月比16人減少し、前月比では29人減少した。

■有効求人倍率の推移



《企業のひとこと》

- 熊本地震で被災した企業の代替受注は5月までの予定だったが、期間が延長された。(金属製品製造業)。
- インバウンドへの対応に向け、地方でもインフラ整備が進むと思われ、各種機械関連の部品の発注も出てくると予想される(一般機械製造業)。
- 最近、海外向けの機械、部品とも動きが鈍く、英EU離脱問題でさらに影響が懸念される(各種機械卸業)。
- 中国、欧州向けの部品が多いため、英EU離脱問題は不安(電気機械製造業)。
- 英EU離脱に伴う為替変動で、デリバティブ収益が減少し、本業の収益力向上が急務(自動車部品製造業)。
- 楽観できる要素は全くなく、円高の進行等で先行きは不透明。厳しい単価交渉が予想される(精密機械製造業)。
- 近年は1世帯の人数が少なくなり、少人数用のパッケージに売れ筋が変わってきた(小売店)。
- 昨年は企業の団体研修などで好調だった合宿が、今年は取り込めず苦戦(観光業)。
- これから小宮祭があり、今の低調な動きが続くことが心配。英EU離脱で円高になり、建築材料費が高騰することも(建設業)。

孫子に学ぶビジネスの要諦

講師：作家 守屋 淳さん

今から2500年前に書かれた本を座右の書として
いる現代の著名人が多くいます。古代の兵法書が、
現代のわれわれの生き方やビジネスにどう関係し
ているかをお話します。

争い事は、それが1対1なのか。ライバルが多数
いるのかで、振る舞い方がまったく変わります。孫
子が戦いの前提としたのは、ライバル多数です。ま
た、国は滅んでしまえば終わりですので、やり直し
がきかない一発勝負も前提となっています。



この2つを前提に、孫子は3つの切り口で戦略を考えました。まず自分がライバルより強い
場合。これは相手を痛めつけず、強い力をうまく政治や外交に乗せて傘下に収めます。次にラ
イバルと自分が同程度の力関係の場合。この時は相手が戦うエネルギーをこちらに向けても
かわし続けます。ライバル多数の中では自分以外の敵同士が、泥沼の戦いになる状況がおいし
いわけです。3つ目には、ライバルの方が強い場合。勝算がなければ退却し戦わないのが良い
わけですが、国と国との争いでは、国が引越すわけにはいきません。歴史を見ると、こうし
た時に、一度強い者の傘下に入って味方になる選択肢をうまく使った勢力が生き残っていま
す。分かりやすいのは徳川家康で、その時々の覇者に協力者として振る舞い、自壊のタイミン
グで兵を挙げ天下を取っています。現代のビジネス界でもIBMの傘下にあったマイクロソフ
トもこの構図です。

それでも戦わざるをえなくなったら、どうするか。孫子は2つの法則を掲げました。1つめは
短期決戦で、勝てる相手とだけ戦う。もう1つは、自分の努力次第でできる不敗の態勢を作る
ことです。勝ちもしないが、負けもしない状況を作っておき、相手がすきを見せたら勝ちを目
指します。この不敗という考え方は非常にユニークな考え方で、他の戦略書にはほとんど出て
きません。欧米では概念すらありません。

不敗の観点から、我々が何か目標を達成したい場合の道筋があります。先着順や一定期間で
白黒がつく条件下では、最初から勝ちを目指します。一方、生き残りが厳しい場合は、自分の
努力で維持、構築できる不敗を守り続けます。そしてチャンスが来たら勝ちを目指します。こ
れはファンドマネージャーのやり方そのものだと言われたことがあります。

戦いの勝ち方には2つの要素があります。相手の態勢を崩してこちらを有利にする崩し技と
決め技です。勝負を決めるのは、兵員・物量の差、精神力の差、情報・技術の差の3つで、ビジ
ネスにも通じます。ただ、どこから敵が現れるか分からず、だれでも真似ができるグローバル
化とデジタル化の時代には、精神力や情報技術では差がつきにくく、やはり地力や規模の違い
です。この差のつけ方は各個撃破の原理です。こちらがどこにいるか分からない状況を作ると、
敵は手勢を広く薄く分散せざるを得ないので、兵力の差をつけることができます。この原則は
テロやゲリラ戦の基にもなっていました。テロが実現できるのはテロリストがどこにいる
か分からないからです。

著名人が孫子を参考にするのは、古代の軍事と現代のビジネスで前提条件をそろえること
ができ、そこに兵法の教えがあり、その中から自分たちが今抱えている問題を解くヒントが得
られるからです。



SUWA SHINKIN BANK

諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-23-8044

<http://www.suwashinkin.co.jp/>